

沖縄県地域公共交通協議会 議事要旨

令和7年度第4回＜令和8年1月20日＞

P.1

令和8年5月26日
沖縄県

1 令和7年度第4回協議会 議事次第

令和7年度第4回沖縄県地域公共交通協議会

日 時：令和8年1月20日(火)

14時00分～16時00分

場 所：沖縄県庁4階 講堂

次 第

1 開 会

2 議 題

- | | |
|--------------------------------|-----|
| (1) 令和6年度 計画の取組状況評価(案)について | 資料1 |
| (2) 令和7年度 計画の取組状況及び中間評価(案)について | 資料2 |
| ① 各種勉強会での取組状況 | |
| ② バス・モノレール半額実証事業 | |
| ③ 交通関係優良団体大臣表彰(わった～バス党) | |
| ④ 名護バスタ、胡屋バスタの取組状況 | |
| ⑤ 中間評価(案) | |
| (3) 地域間幹線系統確保維持計画の変更について | 資料3 |
| (4) 各種ワーキンググループの設置について | 資料4 |

3 報告事項

- | | |
|------------------------------|-------|
| (1) 次世代交通ビジョンおきなわ(仮称)の策定について | 参考資料1 |
| (2) 地域循環バス等実証事業について | 参考資料2 |
| (3) 路線バスの廃止・減便に係る他県事例について | 参考資料3 |

4 閉 会

【配布資料】

- 資料1 令和6年度 計画の取組状況評価(案)
資料2 令和7年度 計画の取組状況及び中間評価(案)
資料3 地域間幹線系統確保維持計画の変更
資料4 各種ワーキンググループの設置
参考資料1 次世代交通ビジョンおきなわ(仮称)の策定
参考資料2 地域循環バス実証事業
参考資料3 路線バスの廃止・減便に係る他県事例
参考資料4 「交通空白」の解消に向けた国の政策動向
参考資料5 令和7年度第3回沖縄県地域公共交通協議会議事要旨等

2 令和7年度第4回協議会 議事概要

2 議題

(1) 令和6年度 計画の取組状況評価（案）について

資料 No	委員	回答
資料 1	＜神谷委員（琉球大学）＞ - 評価指標・モニタリングの公共交通利用者数については、次回からで良いので走行距離当たりで示して欲しい。 - 路線バス本島4社の収支が、これまでマイナスであったものが、令和6年に+25百万円になった一番大きな要因は何か教えて欲しい。	＜事務局＞ - 走行距離あたりの利用者数については、サービス水準とのバランスもあるため、次回に向けて検討していきたい。 - 収支に関しては、利用者数は増えており、一方で減便の影響で走行距離は全体として減っているため、このあたりが影響しているのかと推測している。 ＜金城委員（沖縄バス）＞ - 入域観光客増加（特に外国人）に伴い、主に本島西側路線の利用が非常に多かったこと、また減便による走行距離数が減って、いい意味で効率が良くなっていると感じている。 ＜小川委員（琉球バス交通）＞ - 今の意見に加えて、令和6年4月から運賃改定があった影響もあったと考えている。一方、人件費や燃料費等も上がっているため、厳しい状況はあまり変わっていないと感じている。
資料 1	＜中村会長＞ - 国に報告する12頁の記載内容には、収支は改善されているが、燃料費等の上昇もあり引き続き収支改善が課題であること等、もう少し書き込みは必要ないのか。 ＜小川委員（琉球バス交通）＞ - 運転手不足が最大の懸念であり、運転手の高齢化と若手人材の不足による逆ピラミッド型の年齢構成という状況にある。県、国にも申し上げ補助や支援をいただいているが、非常に厳しい状況にあるという認識は、是非持っていただければと思う。	＜亀谷代理（総合事務局運輸部）＞ - 地域公共交通計画の施策の実施状況と、評価指標がどのように改善したか、それを踏まえた施策対応とサイクルをしっかりとやっていただきたいということを求めているので、そこを踏まえた記載内容としていただければと考えている。 ＜事務局＞ - 記載内容に関しては、本協議会でいただいたご意見を踏まえ修正していきたい。 - 運転手不足の観点からは、サービス水準を上げたり、路線を維持していく上でも重要であることは認識しており、今後効果的な施策の検討が必要と考えている。今後の宿題としたい。

2 令和7年度第4回協議会 議事概要

資料 No	委員	回答
資料 1	＜中村会長＞ - 公務員の公共交通利用率について、那覇市以外の市町村で利用率がわずかではあるが減ってる理由を教えて欲しい。 - 那覇市以外3.2%の数値は、本島市町村の平均値だとして、それを大きく下回っているところで、例えばバスの減便があったからなのか、それ以外の理由なのかを調べて、評価で必要な取組を記載できると良いと思う。	＜事務局＞ - 要因がどのあたりにあるのか、改善に向けてどういった取り組みが必要なのか、今後確認していきたい。 - 今年度、市町村に対して公共交通に関するワークショップを開催し、その中でも減便の影響でバス通勤が難しくなった、或いは送迎や買い物の関係で車を利用しているとの声をいただいている。その辺りも踏まえながら、整理できるよう検討していきたい。

(2) 令和7年度 計画の取組状況及び中間評価（案）について

資料 No	委員	回答
資料 2	＜下地委員（沖縄県ハイヤー・タクシー協会）＞ - 名護の交通結節点については、ターミナルからハブ的なドアツードアでの移動となるとタクシーが重要と思うので、タクシーの運用面についても検討いただきたい。 - 胡屋に関しても、繁華街の賑わいもあるが、特に夜の移動のことを考えるとタクシーが重要となる。このためターミナル内のバス停を夜は一時的にタクシー乗り場や待機場にするとか、検討いただければありがたい。 - また、現在半額パスの実証実験を実施されているが、タクシーについても半額実証実験を実施していただければありがたい。	＜岸本代理（名護市）＞ - 総合交通ターミナル整備に向けて、バス利用者がタクシーにシームレスな乗り換えができるよう計画していきたいと考えている。 ＜古川説明員（沖縄市）＞ - 胡屋においても、繁華街側にタクシー乗り場の検討を進めていると聞いており、夜の利用にどう活用できるかを含めて、国とも連携し進めていきたいと考えている。 ＜事務局＞ - 公共交通全体のサービスという点では、移動困難者を含めた様々な移動を支える観点からも、バスとタクシーを組み合わせた移動利便性を確保していくことが重要と考えている。今後とも、事業者の方々、各市町村とも連携しながら、議論していきたいと考えている。

2 令和7年度第4回協議会 議事概要

資料 No	委員	回答
資料 2	＜小川委員（琉球バス交通）＞ - 基幹バスルートは非常に大事だと思っているが、以前はダイヤや運賃なども一緒に調整できないかといった話があったように感じているが、その辺りについて検討状況を教えていただきたい。 - 現時点でも路線バスは、各方面で共同運行しているルートはあるが、運転手不足という制約要因の中で、今後検討していく必要があると考えているので、問題意識を持っていただいて、県におかれましても是非よろしくお願いしたい。 - 運転手不足はだんだん厳しくなってきたと感じているので、是非これについて速度を速めて検討をお願いしたい。	＜事務局＞ - 運転手不足が非常に深刻な課題となっているところで、これまで活性化推進協議会のワーキング等でバス網効率化について議論してきている。 - ダイヤの調整などについては、基幹バスルートでの統合時刻表の取組を進めているところであるが、まだ至っていないところもあるので、引き続きバス網効率化に向けてバス事業者のご意見を伺いながら議論を進めていきたい。 - 国の経済対策の方針でも、公共交通に関する強い方針が出されているので、事業者と話ししながら、どのような形で、こういったところから効率化できるか、について議論を進めさせていただきたいと思っている。 - 例えば、ダイヤが非常に重複しているエリアでのダイヤ、運行ルート等を調整したり、共同運行をどう広げるか、その中で効率化して運転手のリソースを有効に活用していく等、意見交換させていただきながら、できるところを進めていきたと考えている。
資料 2	＜金城委員（沖縄バス）＞ - 運転手の確保が非常に厳しくなっており、新規応募者も殆どいないという状況にある。県の様々な支援もいただいているが、運転手確保には中々至らないという状況がある。 - 東京バスさんが、外国人運転手を確保して乗務している報道があったが、この場合、我々のような企業で外国人との面接や実技試験を行ったりする必要がある。 - 大きなハードルは、日本語能力に関することであり、バス運転手、タクシー運転手はN3レベルまで持っていくため約1年以上要し、費用面や人材面で一企業では非常に厳しい状況にある。 - 県外から運転手を確保するにも県外も運転手不足は非常に厳しいと考えられるので、外国から人材を確保できるよう、県や国主導で何等か対応していただくお考えはないか。	＜事務局＞ - 外国人運転手に関しては、バス事業者の皆様と意見交換等を始めさせており、外国から人材確保する際の課題や費用等について、研究させていただいているところである。引き続き、お互いに連絡調整させていただきながら、こういった支援が可能かについて、検討させていただきたい。 ＜亀谷代理（沖縄総合事務局運輸部）＞ - 国でも、外国人運転手に関して、2024年度から在留資格、特定技能の在留資格で採用できるように制度を改正したと承知している。 - 実際に取組を進めるにあたっては、事業者が困っていることを聞かせていただき、それに対してどういった制度が使えるか、といった点をコミュニケーションを取りながら詰めさせていただきたいと思っている。

2 令和7年度第4回協議会 議事概要

資料 No	委員	回答
資料 2	＜谷田貝委員（やんばる急行バス）＞ ・ 沖縄県の分担率は、車利用が圧倒的に多く、バスが本来色々担わなくてはならない部分が多くあるにもかかわらず、バスの分担率が非常に低くなっている。SDGs 等様々考えると、バス利用を増やしていかなければならない。その点、資料10頁に記載のある“供給過多”ではなくて、走ってるバスの利用を促進する視点で、是非県に取組を進めていただきたい。 ・ 乗務員不足に加え、バスの定時性も低いことから、バスレーンがあれば表定速度も上がり必要な人員を減らすこともできる。今抱える厳しい状況の中では、このような環境面からバス事業がきちんと存続できるように、県にはバックアップやハード的な部分で取り組みを進めていただきたい。 ・ バス事業者との意見交換に関しては、現場で何が起きているのかはぜひ聞いていただきたいので、こういった会議以外でも常日頃からお互いの連携、情報共有をお願いしたい。例えば、今の取組状況や進捗等を様々な方法を活用して共有していただければ、各取り組みに対して我々の認識も深まると感じている。 ＜中村会長＞ ・ バス事業者、タクシー事業者、自治体の方々がいらっしゃるので、コミュニケーションがすごく大事である。やり方はいろいろあるので皆さんでぜひやり方を含め色々チャレンジしていただきたい。 ・ 10項に関しては、オフピークに車の量をもう少し減らす課題があるとすれば、オフピークにせっきやくバスの余裕があるので、そこにバス需要を持ってくることを、3行目に記載した方が良く、オフピーク割引もここに話はつながってくると感じる。	＜事務局＞ ・ 通勤通学のピーク時間帯は、路線によっては乗車人数に非常に多く、供給面で少し足りていないとの感覚は持っているところである、 ・ 一方で、オフピークや休日は、インバウンドの関係もあり利用者数は増えてきている認識はあるが、全体としては移動需要が少ない時間帯であるため、この利用を増やすことで、バス全体の効果的な運行に繋げる必要があると考えている。 ・ 今年度、オフピーク時間のバス半額実証事業を実施しており、需要喚起等も期待しつつ、結果を踏まえながら検討していきたいと考えている。場合によっては運賃関係で何かできることがないのかということも含めて今後情報提供させていただき、議論させていただきたい。 ・ 日頃からのコミュニケーションについては、ご指摘の通りであり、事業者に限らず市町村も含めて、是非双方向でお互い課題の共有したり、取り組みに関する説明をさせていただくことは密に進めさせていただければと思っている。引き続きご協力をお願いしたい。 ＜事務局＞ ・ 今後、そのように修正させていただきたい。

2 令和7年度第4回協議会 議事概要

資料 No	委員	回答
資料 2	＜下地委員（沖縄県ハイヤー・タクシー協会＞ 一番の懸念材料は乗務員不足であり、日本国内では人が集まらないし、海外から乗務員を集めようとしてもハードルが高いので、例えば、海外でタクシーやバス乗務員の免許証を持っている方や、運転技能に高い能力のある方を、特区を利用して日本の先進事例として沖縄で実証できるような取り組みもあっていいのではないかと考えている。	＜事務局＞ アイデア、発想等を含めて、どういったことができるか検討することが重要であるので、この場というよりも、改めてコミュニケーションさせていただければと思う。
資料 2	＜嵩原代理（東京バス）＞ - 昨年、フィリピンからのバス運転士を 9 名採用し、そのうち 4 名が沖縄に来ている。去年12月に労働VISAがおり、今年に入り、運転を始めたところである。 - 問題は日本語能力であって、弊社では、まず運転技能とよりも、日本語の勉強を経てN3を持っている人たちを対象に採用面接を行って、その上でフィリピンで運転の教習、それから日本に来て、日本での免許取得と大型二種の取得のステップを踏んでいる。 - タクシーもバスも利用者とのコミュニケーションがどこかで必ず必要であり、運転が上手ということではなく、言語の部分から採用を考えるのが重要と感じている。	

2 令和7年度第4回協議会 議事概要

資料 No	委員	回答
資料 2	＜神谷委員（琉球大学）＞ - 協力型バスレーンは、実施期間が令和8年11月から令和9年3月中旬で、年度末までに効果等を確認し、問題なければ継続とあるが、時間のない中でどういう効果計測を行い、問題なければの判断を行うのか教えていただきたい。 53頁施策7は、那覇市の小学校からこちらに話が来ているのもあるので、記載できるものは加えてはどうか思っている。 - 施策9番目は、令和7年に西普天間までに294番など導入された路線もあるので、表現は改めた方がいいと思う。 54頁施策15の北谷ゲートウェイは、4月以降はどうする予定なのか教えて欲しい。 55頁施策19の小中高校の送迎に関しては、学校の先生方がバスに乗ったことがないという話を良く聞く。次年度以降で構わないが、先生にバスに乗ってもらう取組を入れられないかと考えている。また、学校の先生は、駐車料金払っていると聞か、その料金と居住地のデータが取れば、傾向も見ることができると思う。 54頁に石垣空港や宮古空港の記載が見られる。本計画は本島を対象としているが、空路や海上航路、離島は、今後どう対応していくのか検討いただきたい。	＜事務局＞ - 実証期間については、実施するのではあれば長目の期間が良いと考えており、その点で現時点ではチャレンジな期間を設定している。効果計測の方法等に関しては今後検討していく予定であり、整理した上で改めてご説明させていただきたい。 - ゾーン30取組は各所で動きがあるため、確認しながら加筆・修正していきたい。 - 西普天間の新規バス路線に関しては、書きぶりを修正させていただきたい。 - 北谷ゲートウェイに関しては、規模は縮小することになるが、機能としては令和8年度も北谷ゲートウェイを続けていく予定としている。本格稼働に向け、次年度整備方針をたて、施設整備や役割分担等を基本計画で示していく予定である。 - 学校の先生に関しては、バス利用機会や駐車場との関係を含めて、学校関係者や庁内教育関係部署とも連携を図りながら検討していきたい。 ＜崎間代理（沖縄県教育庁）＞ - 学校の先生は、広域からの通勤もあるので、それぞれの学校で先生方の通勤実態の把握等も必要があると考えている。また、バスの利用に関するパンフレット等を学校現場の教職員の方にも周知していくことはできていると思う。 - 今の計画は、沖縄本島の陸上交通を対象としているが、離島に関しては、空港、港、陸上交通との連動が非常に必要になってくるので、例えば県全域で陸海空を含めた総合交通体系基本計画といった別の計画等もあるので、この辺りも踏まえ検討させていただきたい。

2 令和7年度第4回協議会 議事概要

資料 No	委員	回答
資料 2	<中村会長> - 協力型バスレーン実証実験は、シナリオを事前に詰めることが重要で、それにより実施期間や効果の捉え方、そのために必要な分析は何かを考えることとなる。 - まずはバスの走行性や利用促進を見ることが大事で、その先に渋滞効果となる。 - 一方、通勤は通勤申請のタイミングも考えた期間も関係する。そこはアンケート調査やそのために必要なデータ、期間を考え、意思決定していくことに繋がると思う。 - 学校の先生の通勤は難しいところはあると思うが、年1回やプライベートでも良いのでバス利用していただくことで、学校MMで先生に話に入ってもらう際、効果があるだろうし、重要なことだと思う。 <小川委員（琉球バス交通）> - 学校MM等では、バスの乗り方教室も様々な学校で実施しているが、先生でもバスをよく利用されている方や利用されていない方がいるようである。 - 令和6年4月からは、全国で初めて通学定期割引を50%に引き上げている。これにより、ご家庭の負担軽減やできるだけバス利用していただけるよう取組を進めているので、我々も協力させていただきたい。 <鹿川委員（カーリー観光）> - 八重山エリアでは、バス、フェリー、水牛車に至るまで、クレジットカードで決済可能な取り組みがある。そういった先行事例も参考に、観光で楽しめる交通体系の構築について進めていただきたい。 - モビリティデータ活用について、沖縄県ではレンタカーの需要がかなり多いので、これに関する交通データの取り入れも検討いただければと思う。これに関しては、文化観光スポーツ部の取り組みで、過去にレンタカー事業者と連携してデータの取得があったかと思う。	<事務局> レンタカーは重要なデータであるので、追加していきたい。

2 令和7年度第4回協議会 議事概要

資料 No	委員	回答
資料 2	＜池田委員（琉球大学）＞ - 名護と胡屋のバスについて、レンタカーや自家用車との関係がよく見えていないと感じる。特に名護の場合、レンタカー需要への対応が非常に重要だと感じている。また、県民がバスまで車で行ってバスに乗り換えることを考えると、バスには駐車場や自家用車を止め乗り換えができる機能が不可欠だと感じる。このように、乗り換えシステムの中で、レンタカーや自家用車とどう繋ぐのかが見えていないと感じるので、検討整理していただきたい。 - 周遊型交通システムや観光地との連携について記載はあるが、その課題を具体的にどう検討するのかが見えなと感じている。南北軸は交通軸の整備が進み、バスの需要も見られるが、東西方向は道路網を始め交通網が弱い。バスについても南北は移動できても東西方向になるとの乗り換えも良くわからないし、非常に不便と感じる。したがって、乗り換えのシステムと絡めて、周遊型交通であったり、観光地との連携を含めて是非検討していただきたい。	＜事務局＞ - 観光拠点の回遊性に関しては、全体を踏まえながら考え方を整理していきたい。また、後で説明する次世代交通ビジョンおきなわといった構想づくりにも着手しているところであり、様々なものを組み合わせた形で、これからのチャレンジしながら進めていきたい。 ＜岸本代理（名護市）＞ - 総合交通ターミナル整備に関しては、レンタカー事業者にもヒアリングさせていただき、レンタカー需要も検討しながら、バスターミナルへのレンタカー乗り場を検討している。 - 那覇空港も渋滞し、レンタカーを借りるのに時間を要していることから、那覇から名護まで公共交通を使って、その後レンタカーを利用することも考えられ、こちらでも検討しながら整備できればと考えている。また、駐車場についても整備する予定としている。 ＜古川説明員（沖縄市）＞ - 胡屋バスを中心とした2キロ圏内の回遊性については、沖縄市の循環バス等含めた形で検討していきたい。 - レンタカーについては、こういった形としていくか検討していきたい。駐車場については、胡屋周辺の既存民間・公共含めた駐車場の活用や、キスアンドバスライドについて、こういった形で連携できるか引き続き検討していきたい。

2 令和7年度第4回協議会 議事概要

(3) 地域間幹線系統確保維持計画の変更について

資料 No	委員	回答
資料3	・ 意見なし	

(4) 各種ワーキンググループの設置について

資料 No	委員	回答
資料4	・ 意見なし	

議題全体について

資料 No	委員	回答
資料1 ～4	・ 議題1の計画の取組状況評価（案）については、ご意見を踏まえて修正した上で、今回の評価ということご了承くださいくことで良いか。 ・ 議題2の計画の取組状況及び中間評価（案）については、今日のご意見も踏まえ、会長が確認した上で、ご了承くださいくことで良いか。 ・ 議題3の地域間幹線系統確保維持計画の変更については、協議会として了承するということが良いか。 ・ 議題4の各種ワーキンググループの設置については、協議会として了承することで良いか。	・ 異議なし ・ 異議なし ・ 異議なし ・ 異議なし

2 令和7年度第4回協議会 議事概要

3 報告事項

資料 No	委員	回答
参考資料1～3	<小橋川委員（西原町）> - 先日新聞報道でもあったが、大型MICEも踏まえてモノレールの循環型について検討をいただきたい。 <谷田貝委員（やんばる急行）> - 参考資料1の7頁の検討体制について、計画の実効性を担保する点では交通事業者も入っていた方が良いのではないか。 <中村会長> - SUMPはヨーロッパで実施しているが、EUが多額の資金を用意して実施しているものであり、SUMPで全て解決するように思わないようにすることが重要である。一方で、SUMPのような評価の仕方や回し方等は意味があるので、その辺りは気をつけて欲しい。 <小橋川委員（西原町）> - 地域循環バスの実証実験に関して、西原町ではたご浦西地域を重要な交通結節点と考えている。ここを中心に基幹医療支援型病院のハートライフ病院、西原シティまで広げることで効果的なものができると考えているので、是非検討いただきたい。 <神谷委員（琉球大学）> - 人流データを見ることで、例えばロワジュール周辺から国際通りや新都心あたりまで、観光客がグルグルと周遊していることが見えている。宮崎でのまちなか回遊モビリティもあるが、日中のバスの利用促進の観点とも関係するので、その辺りの視点も持っていただけたらと思う。	<事務局> - 次世代交通ビジョンおきなわの構想の中では、交通網の姿までまだ検討していない段階であるが、東海岸エリアの交通のあり方は非常に重要な観点であるので、市町村とも意見交換しながら今後検討していきたい。 - 交通事業者への意見照会等は、実施する予定としており、枠組みとして会議体等が必要であれば検討していきたい。

2 令和7年度第4回協議会 議事概要

3 報告事項

資料 No	委員	回答
参考資料1～3	＜中村会長＞ - 宮崎の例は、10人とか20人乗りぐらいの乗り物が15分間隔でグルグル回っていて、それを市民の方々も利用し、駅商業施設と中心街を繋がる形で活かし、合わせて再開発地域等が連動している面白い例である。そういったニーズがあるところにこういう話を持っていくってのは確かにあると感じる。 - 二つの自治体をまたがるような循環にすれば良いのではなく、本当に必要なところに必要な施策を考え、地域全体の流れを良くしていくことが重要である。 ＜小川委員（琉球バス交通）＞ - てだこ浦西駅から西原営業所まで、西原シティや西原高校前を経由した路線を運行しているが、残念ながら利用者数が非常に少ない状況にあることも考慮していただければと思う。	－ 以上